

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより

身近な材料を使って簡易な方法での炭焼き体験

1月10日に愛媛県松野町立松野西小学校の四年生15名を対象にした今年度第6回目の森林環境教育として炭焼き体験を実施しました。

はじめに、炭の種類や利用方法、炭の特性について説明しました。

続いて炭焼き体験です。児童達は職員から手順や注意点を聞き、ブリキ缶の中にもみ殻とマツボックリやドングリ、折り紙など自分達で作った物を詰めてドラム缶のたき火の中へ並べました。そして、アルミホイルに包んだイモが炭になるかどうか合わせて実験しました。

炭になるまでの待ち時間で色々な炭の実物を観察させて、白炭と黒炭をノコギリで切断する実験では黒炭は簡単に切れたのに対して白炭は堅くてなかなか切断することができませんでした。

また、白炭の備長炭を木のバチで叩くと「チンチン」と鉄琴のような綺麗な金属音がするので児童達が唄って叩いて即席のミニ演奏会もしました。

約30分経ってたき火の中からブリキ缶取り出し、冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けると、イモは皮の表面だけが黒く焦げ、炭にはならず失敗でしたが、ほくほくの「焼き芋」ができあがりみんなでおいしく食べました。

そして、ブリキ缶を開けると折り紙やドングリ、マツボックリなどは実験成功でちゃんと「炭」になっていました。

終わりに児童達から、「年間を通じた森林学習で、森林の大切さ、自然の大切さがわかりました。めっちゃ楽しかった。」とお礼の挨拶がありました。

当所としても継続した森林環境教育を通して、森林の大切さや木材利用についての理解がより深まったものと考えます。



竹炭



白炭



オガ炭



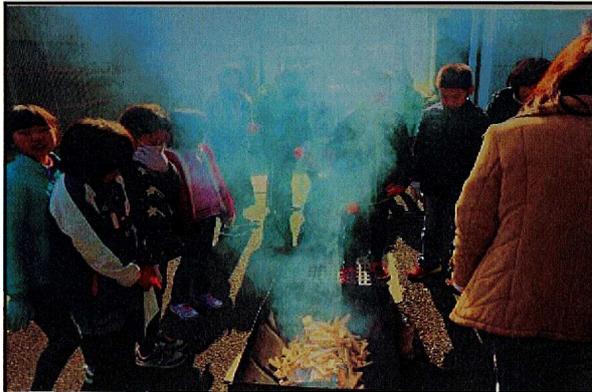
黒炭



簡易な炭焼きの様子



ブリキ缶に焼く物を詰める様子



煙もくもく炭焼き中



即席のミニ演奏会



ブリキ缶から炭の取り出しの様子



焼き芋はみんなで食べました

東中筋小学校と中村小学校で木工クラフト学習

12月11日に四万十市立東中筋小学校の一～三年生と五年生の計34名、1月17日には四万十市立中村小学校の一・二年生計75名を対象に木工クラフト学習を実施しました。

最初に東中筋小学校では、「木材の特徴」についてのお話で、木材には優れ

た性質や欠点もあり、木材を上手に使う工夫をして色々な物や場所に木材を使っていることを説明しました。

また、中村小学校では紙芝居「森」で、人工林は人による手入れが大切であることを理解してもらいました。

次に、二校ともスギやヒノキの板でゆるキャラ等のストラップを製作しました。

児童達は夢中になって製作し、それぞれ作品を完成させました。

終わりに児童達から感想の発表があり、「紙芝居を見て木や森、自然の大切さがわかりました。」「ゆるキャラのストラップが良く出来たので家族にプレゼントしたいと思います。」と嬉しそうに話してくれました。

今回の森林環境教育を通して木材の良さや森林の大切さを身近に感じてもらえたと思います。

東中筋小学校



木材の特徴を知る実験の様子



木工クラフト製作中

中村小学校



木工クラフト製作中



木工クラフト製作中

東中筋小学校でシイタケの駒打ち体験

1月18日、四万十市立東中筋小学校の「山の学習」で、五年生16名を対象にシイタケの駒打ち体験学習を指導しました。

はじめに教室で、「キノコ」のことやシイタケ栽培の方法について説明しました。

その後は校庭に出て駒打ちの体験です。電動ドリルの使用方法やチョークを使って原木に千鳥状にマーキングしてからの穴開け方法や作業の注意点等を実演を交えて説明した後、5班に分かれて作業を行いました。

みんなが協力して要領良く作業を進めた結果、クヌギ原木に種駒を木槌で打ち込んで、ほだ木50本余りを完成させました。

終わりに児童から、「電動ドリルを使った穴開けは初めてだったので少し緊張したけどよい経験になりました。」「シイタケが生えるのがとても楽しみです。」との感想がありました。

学校によるとほだ木は家に持ち帰ってシイタケが生える過程を観察するそうです。

今回のシイタケの駒打ち体験を通じて、児童達が森林や林業への関心や理解を深めていってくれることを期待しています。



電動ドリルで穴開けの様子



シイタケの駒打ちの様子

大月小学校と咸陽小学校で木工クラフト学習

2月2日に大月町立大月小学校で二年生28名、2月7日には宿毛市立咸陽小学校の二年生42名を対象に木工クラフト学習を行いました。

二校では、工作に入る前に紙芝居「森」や森林環境教育用の下敷きで、植林したスギやヒノキは世話をしないと立派な木に成長しないので人がちゃんと手入れをすれば、水をたくわえ、きれいな空気を作り、災害を防いだり大切なはたらきをして私たちの暮らしを守ってくれていることを説明しました。

次に、大月小学校では魚梁瀬スギ等の小枝の輪切りを使用したくまのストラップ作り、サクラ等の小枝で木の鉛筆作りをしました。各キットを児童達がボンドで貼り付け鉛筆の芯を入れて完成させました。なお、魚梁瀬スギは高知県の木に指定されており、今年で伐採が最後となり、出材されなくなるので今回その小枝を材料として使用していることを説明しました。また、咸陽小学校では、お雛様飾りのセットに切り抜いたヒノキ板のパーツに児童達がポスターカラーで自由に色を塗り、ヒノキの台座にボンドで貼り付けて作品を完成させました。

なお、二校とも地元のケーブルテレビが取材に来て、真剣に作品づくりに取り組む様子を撮影してくれました。

最後に、児童達から感想の発表があり、「紙芝居を見て木や森林の大切さがわかりました。」「すてきなお雛様の置物が出来たので家族に見せて家の玄関に飾ります。」と嬉しそうに話してくれました。

今回の木工クラフト製作を通じ、木の持つ手触りや温もりなど、素材としての木材の良さや森林の大切さについて理解してもらえたものと思います。

大月小学校



木工クラフト製作の様子



紙芝居「森」を見る様子

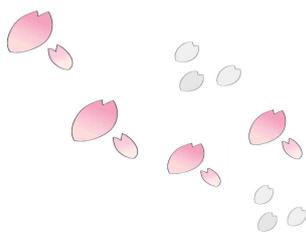
咸陽小学校



お雛様飾り完成したよ



木工クラフト製作の様子



中村小学校で森林教室 講義と実験

「木材の特徴」の

四万十市立中村小学校より、「六年生の卒業制作として3学期に彫刻刀を使って写真立ての制作(図画工作)の授業があり、その授業の前に材料の木材について、貴センターの森林環境教育で知識を習得したい。」との要請がありました。

このため、2月14日に六年生45名を対象にした森林教室「木材の特徴」の講義等を実施しました。

最初に、木材は古くから私たち日本人の生活になくてはならない存在で、木材には優れた性質や欠点もあり、木材を上手に使う工夫をして色々な物や場所に木材を使っていることについて説明しました。

次に、教材の写真立てのキットはシナノキの合板^{ごうはん}で出来ていて、シナノキは昔から鉛筆やマッチの軸、アイスクリームの棒として利用され、見た目の美しさを活かしてシナ合板として家具や器具材として利用されていること、また、今日はちょうどバレンタインデーですが、このシナノキは葉っぱがハートの形をしているので、公園などにシンボルツリーとして植えられていることを説明しました。

最後に、日本で一番軽い木(桐)と日本で一番重たい木(イスノキ)、世界で一番軽い木(バルサ)と世界で一番重たい木(リグナムバイタ)について説明し、世界で一番軽い木と重たい木の二つの重さを水槽や上皿天秤ばかりを使って比較する実験を児童に行わせました。上皿天秤ばかりを使った実験では、1センチ角のリグナムバイタ1個を右側の皿にのせて、1センチ角のバルサを左側の皿に置くと何個で重さが釣り合うかと質問したところ、答えはそれぞれ違う個数でした。バルサを皿に1個1個と置いていき皿が動き、めもりが自分の予想と外れると歓声が上がりました。

森林教室が終了後片付けをしていると、児童達がまわりに集まってきて、「バルサがとても軽いので驚いたし、いろいろな板を持って軽さや硬さ、手触りや匂いなどを感じることができました。」「写真立てに使われている木材のこ

とも詳しく知ることができたので木材にとっても興味が湧きました。」などと話してくれました。

児童には、卒業制作を通して木材に親しみ、今後も利用してもらいたいと思います。



木材の特徴を知る実験の様子



板や角材の手触りなど確認中



木材の特徴を知る実験の様子



平成29年度ニホンジカの捕獲実績 (30年2月末)

当センターでは、高知県四万十市の黒尊山国有林周辺、愛媛県松野町の目黒山、宇和島市の滑床山国有林周辺において、大型・中型・小型の囲いワナ、合計19基を設置して、ニホンジカの捕獲に取り組んでいます。



平成29年度ニホンジカの捕獲実績（30年2月末）	
捕獲場所	合計
黒尊山国有林周辺（高知県）	41
目黒山・滑床山国有林周辺（愛媛県）	12
 合計 	53

わくわく発表会（松野西小学校）



愛媛県松野町立松野西小学校より、「この1年間の総合的な学習の時間に学んだことを発表する『わくわく発表会』を2月20日に開催し、四年生が森林環境について考えようとのテーマで学習したことを元に、自分たちの考えたことを発表するので参観しに来て下さい。」との御案内をいただきました。

松野西小学校四年生（本年度15名）は、平成19年度より毎年度4～6回継続して森林環境教育を実施しています。今年度は、①校庭の樹木学習と森林のはたらき、②木工教室で昆虫の壁掛け製作、③空飛ぶ種子、④八面山登山体験、⑤水の土壌浸透実験と土にすむ生物、⑥炭焼き体験の計6回です。

この中から、児童達が4つのテーマを決めグループ発表をしました。前半1つ目は「木のはたらき」、2つ目は「木の利用」、移動を挟んで後半1つ目は「森林環境について考えよう」、2つ目は「木のおもしろ話」でした。

なお、1グループの発表者は2人から4人です。各グループ共にスライドや絵などの資料を用いたプレゼン形式の研究発表です。12分程度の持ち時間で、要点を絞って簡潔に大勢の人前でも堂々と発表する児童達の姿がありました。

教室には参観日ということで大勢の父兄が参観に来ており、三年生と五年生児童（28年度森林環境教育を実施）も入れ替わり立ち替わり四年生教室に来て、何度も手を上げて質問したり発表後の感想を述べていました。

見に来ていた三年生達の感想では、「四万十川森林ふれあい推進センターの森林環境教育がこれから楽しみです。早く四年生になって八面山に登ったり、いろいろな体験をしてみたいです。」と何人もの児童が言ってくれたのが印象

的でした。

なお、学校の方から、「これからも森林環境学習をぜひ継続していきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いします。」との要請がありました。



 **Spring**

林野庁 四国森林管理局
四万十川森林ふれあい推進センター
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2
電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031